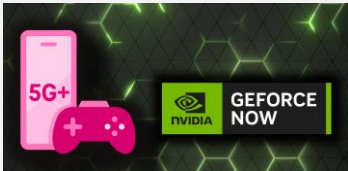


消費者向けネットワークスライシング

独DT、NVIDIAと提携し、5G SA技術により、クラウドゲームの通信を最適化。2025年秋開始

両社は、DTのクラウドゲーミング向けモバイル通信サービス「5G+ Gaming」とNVIDIAのクラウドゲームプラットフォーム「GeForce NOW」のコラボレーションについて以下の通り発表した。同サービスは、人口カバー率が98%を超えるDTの5Gエリアのどこでも利用可能。

利用技術	・ 5G SA、ネットワークスライシング ・ L4S (Low Latency, Low Loss, Scalable Throughput)
提供価値	・通信網が混雑した環境下でもスムーズな画像表示と短いレスポンスタイムを確保 ・クラウドゲームを外出先でも自宅と同じようにスムーズにプレイ可能
料金・利用方法	・DTの5G+ Gamingオプションは無料。ただし最新のポストペイドプランの加入と5G+ Gamingオプションの申込が必要 ・GeForce NOWは1日4.39€～。Androidアプリでの利用が必要
機種	・Galaxy S24 Ultra, S25シリーズが対応



法人向けネットワークスライシング

米T-Mobile、ネットワークスライシング、衛星通信、セキュリティを備えた法人向けプランを発表

法人向け新プランの「SuperMobile」では月額95ドル(税・手数料別)で無制限の通話、SMS、300GBの高速テザリングなどに加え、以下機能を利用できる。

- ・ **ネットワークスライシング**：5G-Advanced網においてより低遅延で高速な通信を一貫して提供すると同時に、リソースを動的に最適化し、通信の需要が高い時でも企業が必要な場所で重要なタスクを完了できる。データ集約型のアプリやライブストリーミングのためにネットワークリソースを動的に調整可能。
- ・ **衛星とスマホの直接通信**：Starlinkを利用した「T-Satellite」に対応。
- ・ **組み込み型のセキュリティ**：強化された暗号化、高度なデバイス認証、最先端のプライバシー保護でデータを保護。セキュリティアプリの「Threat Protect」(月額1.99ドル)も無料で利用可。

T-Mobileは、デルタ航空とアクシスエナジーサービスが本プランを既に試用していると述べている。



印Jio Platforms、10のネットワークスライスを稼働

上級副社長のAayush Bhatnagar氏は、5G SAコアとネットワーク・スライシング・プラットフォーム(NSP)により、10のアクティブなネットワークスライスが現在稼働しており、規模、パフォーマンス、信頼性が最適化されていると述べた。

特徴

- ・ 全国規模の5G SAネットワーク全体において展開
- ・ エンタープライズ、IoT、ゲーム、固定無線アクセス(FWA)、重要度の高いサービス向けに特化した通信レーンを提供
- ・ 各スライスには堅牢なQoS（サービス品質）とSLA（サービスレベル合意）が保証されている
- ・ 商用グレード。実際の商用環境でテスト済み



5G-Advanced

UAE du、64T64RデュアルバンドAAUを展開。
NW品質向上、周波数・エネルギー効率を促進

duは、Huaweiとの協業により、Massive MIMOと強化されたキャリアアグリゲーションによる5G-A技術をライブネットワークに導入した。

導入技術	• 64T64R(64送信64受信)のデュアルバンドアクティブアンテナユニット(AAU)
導入帯域	• 3.7GHz帯と2.6GHz帯
提供価値	• 容量増強、エリア改善 • ハードウェアを統合し、周波数効率を高め、ネットワーク・パフォーマンス向上、消費電力・カーボンフットプリント削減を実現
ユースケース	• 消費者:8K動画、リアルタイム会議、自動運転、スマートシティなど • 企業顧客:大規模IoT、デジタルサービス

duは、同技術の導入により、**5.4Gbpsのピークデータ速度（平均比最大33%の向上）、セルエッジ（基地局から離れたエリアの境界）での接続性の強化、アップリンク速度の向上などを実証**した。

豪Telstra、EricssonとCA自動設定機能を導入

Telstraは、2025年5月から、Ericssonの5G-Advancedソリューションの一部機能である**Automated Carrier Aggregation（自動CA）**をノースシドニーの5G-Advanced対応基地局に導入開始した。

従来のCarrier Aggregation（CA）は、手動または半手動で設定されてきたことで、リアルタイムでの実行ができず、また、人為的ミスが起こりやすい欠点があった。

自動CAは、高度なアルゴリズムを使用して最適なキャリアセットをその場でインテリジェントに選択し、適切なリソースを適切なタイミングで適切なユーザーに割り当てる。これにより、速度、カバレッジ、信頼性が向上し、手作業による設定が大幅に削減され、運用コストが削減されるという。

初期の結果では、**CAの組み合わせが20%増加し、ピーク速度は向上**した。Ericssonは、この結果は、本機能が駅での高精細度映像のストリーミングや外出先でのコンテンツアップロードなど、顧客がデバイスから最高のパフォーマンスを得られるようにする能力を備えていることを裏付けるものだと言っている。

6G

Qualcomm、6Gの最初の主要アプリケーションとしてドローンジオフェンシングを想定

Fierce紙のインタビューにおいてQualcommの標準化担当VPは、**ミリ波、あるいはその他のGHz帯が、初期の6Gジオフェンシング・アプリケーションに使用される可能性が高い**とし、ミリ波は障害物がない限り素晴らしいと述べた。

ジオフェンシングは、6Gネットワークによって設置された仮想的な柵のようなもので、ドローン、建物、その他の自律飛行車両が衝突しないように保護する。ジオフェンシングは、物体から信号を反射させることで位置を検知し、ネットワークが位置を把握したり物体を検出する仕組み。

同氏は、6G開発の初期には注目度が高かった、テラヘルツ(THz)周波数への関心は薄れつつあると指摘する。同氏は、3GPPにおいてTHzが優先事項となっていないと述べ、一部の新興事業者はTHzに全く興味がないと言っていると付け加えた。